

十全會誌

第參號

(明治三十年六月十三日發行)

原著及實驗

◎結麗阿曹篤並ニ倔亞葯箇兒ニ就テ

會員 高山基重

〔基原〕結麗阿曹篤ハ一千八百三十年 Reichsbach 氏ノ創製ニ係ル數種「フェノール」類ノ混溶液ニシテ同氏ハ葦黃花族 Amentaceae 樺科 Cupuliferae 山毛櫸樹屬 Fagussylvatica L. ナル植物ヲ乾餾シテ得タル蓼兒ヲ取り之レナ更ニ二百度乃至二百二十度ノ温ニ於テ蒸餾シ茲ニ得タル「フェノール」ニ結麗阿曹篤ノ名ヲ命セシモノナリ然ルニ一千八百三十四年 Niess 氏ハ石炭蓼兒ヨリ流動石炭酸ヲ製シ之レニ石炭蓼兒結麗阿曹篤ナル名ヲ命セシヨリ以來當時醫療上此ノ兩者ヲシテ同一視シ應用セシモノナルガ爾后一千八百五十一年 Gomp Besanez 氏及ヒ一千八百五十一年 Hasivetz ノ両氏等以上二品ニ就テ精驗シテ之レカ成分ノ同一ナラサルヲ檢明セリ即チ其甲種ノ主成分ハ倔亞葯箇兒 $C_6H_4\{OCH_3\}^{(1)}$ 及ヒ苦列阿曹爾 $C_6H_3\{OH\}^{(3)}$ ヨリ成リ傍テ少量ノ苦列曹爾 $C_6H_4\{OH\}^{(4)}$ 迷知爾兒苦列阿曹爾 $C_6H_3\{OCH_3\}$ 幾矢列納爾 $C_6H_3-(OH)\{CH_3\}$ 及ヒ自余ノ「フェノール」類ヨリ成ル而シテ其乙ハ主トシテ石炭酸 $C_6H_5(OH)$ ヨリ成リ其他ハ少量ノ苦列阿曹爾倔亞葯箇兒及ヒ焦

性阿仙藥素 $C_6H_4(OH)_2$ (1) 等ヨリ成レルヲ知レリ一千八百八十七年 Fraetzel 及ハ Sommerholtz ノ
兩氏始メテ結麗阿曹篤ヲシテ肺勞患者ニ應用セリト云フ而シテ又結麗阿曹篤ノ主成分タル僂亞蒞
箇兒ヲ結核性患者ニ應用セシハ Sacht 氏ナリト云フ

〔結麗阿曹篤ノ製法〕結麗阿曹篤ハ山毛櫸樹ノ蓂兒ヲ割温蒸餾シテ其水ヨリ重キ部分ヲ別ニ採集シ
以テ之レニ加里瀉液ヲ加ヘテ油狀ノ物質ヲ除去シ後チ酸ヲ以テ該化合物（即チ「フェノール」類ノ
加留謀鹽）ヲ分解セシメ玆ニ分離折出スル所ノ油狀ノ物質ヲシテ再ヒ割温蒸餾法ニ由テ其二百度
ヨリ二百二十度ニ於テ餾出スル部分ヲ採集スルニアリ而シテ斯ク製出シタル結麗阿曹篤ハ本局方
ノ記載ニ從フキハ左ノ性狀ヲ具ヘサルヘカラス

〔性狀〕結麗阿曹篤ハ無色透明或ハ類黃色若シクハ類褐色油狀ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ呈シ強ク光
線ヲ屈曲シ竄透性ノ煙臭ヲ有シ百二十分ノ水及ヒ大約二十分ノ沸湯ニ溶解シ純酒精、依的兒、嚼囉
衍謨水醋酸及ヒ硫化炭素等ニハ隨意ノ比例ニ於テ二百五度乃至二百二十度ノ温ヲ得ハ其大半ハ餾
出シ零下二十度ノ寒冷ニ逢フモ凝固セス比重ハ一、〇六乃至一、〇八ナリ而シテ其夾雜物トシテハ
石炭酸、那布太林、焦性沒食子酸ノ復性依的兒等ヲ檢査スルニアリ

〔僂亞蒞箇兒製法〕結麗阿曹篤ヲ割温蒸餾シテ其二百度乃至二百五度ノ温ニ於テ餾出スル部分ヲ採
取シ之ニ強安母尼亞水ヲ加ヘテ振盪シ以テ酸性ノ物質ヲ除去シ得タル油狀ノ物質ヲ更ニ割温蒸餾
シテ其二百五度ノ温ニ於テ餾出スル部分ヲ捕集シ之レニ同容量ノ依的兒ヲ加ヘテ容解シ（此ノ際
温ヲ發ス）次テ苛性加里ノ濃厚酒精溶液ヲ稍々過剰ニ加フルキハ（始メ暗色ヲ呈シ後チ汚白色トナ

ル) 玆ニ倔亞蒔箇兒加溜謨ノ結晶性糜粥狀物ヲ生ス之レ倔亞蒔箇兒加溜謨ハ依的兒ニ溶解セサルヲ以テ茲ニ折出ス由テ該結晶性ニ依的兒ヲ加ヘテ充分能ク洗滌シ後チ結晶物ニ酒精ヲ加ヘテ溶解シ再結晶ヲ生セシメ然ル后チ之レカ結晶ニ稀硫酸ヲ加フルキハ分解シテ油狀ノ物質ヲ折出ス(此ノ油物質ハ倔亞蒔箇兒ニシテ少シク暗色ヲ呈ス)故ニ分液漏斗ヲ應用シテ油狀物質ヲ分取シ之レニ無水格骨兒加耐叟誤ヲ加ヘ殆ント百度ノ温ヲ與ヘテ水分ヲ吸收セシメ爾后油狀物ヲ沸騰點「コルフ」ニ於テ二百五度以下ノ餾出物ヲ採取スルニアリ之レ即チ倔亞蒔箇兒ナリ

〔性状〕倔亞蒔箇兒ハ無色透明ノ液ニシテ少シク光線ヲ屈曲シ又不快ナラサル芳香ヲ有ス二百度乃至二百二度ノ温ニ於テ沸騰シ比重一、一一七ナリ水ノ二百分ニ溶解シ其他酒精及ヒ依的兒等ニハ容易ク溶解ス而シテ其酒精溶液ニ過格魯兒鐵液ヲ加フルキハ少時藍色ヲ呈シ其多量ヲ加フルキハ草綠色ヲ呈ス

〔檢査法〕本品二c.c.ヲ那篤倫瀋液(比重一、三〇ノモノ)ノ同容量ニ和シ一回熱ヲ與ヘ後チ之レヲ室內ノ温ニ放置セシムレハ白色結晶性ノ塊ニ凝結セサルヘカラス若シ其不純品ニアリテハ然ルヲナシ又本品ニ濃硫酸ヲ加フルニ著シク赤色ヲ呈スヘカラス又本品二c.c.ニ石油偏陳四c.c.ヲ加ヘ攝氏二十度ニ於テ振盪スレハ直チニ全ク折出セサルヘカラス若シ透明ニ混和スルキハ不純ノ品ナリトス既ニ結麗阿曹篤並ニ倔亞蒔箇兒ニ就テノ基原及ヒ製法性状檢査法ヲ陳述セシカ余ノ今回本試驗ニ着手セシ所以ノモノハ他ナラス即チ二個ノ企望ヲ有スルモノナリ其一ハ結麗阿曹篤ノ主成分タル倔亞箇兒ニシテ眞ニ結核性患者ニ有効ナリトセハ專ラ倔亞箇兒ヲシテ應用セラレンコト切望シテ

止マサルモノナリ其然ル所以ノモノハ本局方ノ結麗阿曹篤ハ其制裁上沸騰點ノ最下ヲシテ二百五度ヲ以テセリ之レ二百五度ナルキハ已ニ倔亞蒞箇兒ヲシテ分取セシ残渣ナリト云ハサルヘカラス（倔亞蒞箇兒ノ沸騰點ハ二百度乃至二百貳度ナレハナリ）斯ル不正品ヲ應用シテ其少ナカラサル結核性患者ノ生命ヲ救ハントハ實ニ望ムヘカラサルノ次第ナラスヤ故ニ余ハ倔亞蒞箇兒製造ノ原資タル結麗阿曹篤ヲシテ結核性患者ニ應用シ之レカ特效ヲ奏セシメンニハ宜シク本局方ノ沸騰點ヲシテ二百度ニ改正セスンハアルヘカラサルナリ之レ第二ノ企望ナリ加之ナラス結麗阿曹篤中ノ第二成分タル苦列曹爾モ共ニ有効ナリトセハ多々益々結麗阿曹篤ノ沸騰點ヲシテ二百度トナサマルヲ得ス然ルキハ割温蒸餾法ニ依リ以上二質ノ餾出物多量ヲ収獲セシムレハナリ（佞純苦列曹爾ノ沸騰點ハ百九十八度ナリ然レモ倔亞蒞箇兒ノ存在スルトキハ共ニ二百度乃至二百三度ノ温ニ於テ蒸餾シ來タレハナリ）而シテ現行本局方ニ從フキハ二百五度以下ノ温ニ於テ蒸餾シ來レル部分ヲ含有スル結麗阿曹篤ニアリテハ遺憾ナカラ之レヲ不適藥品トナサマルヲ得ザルノ場合ナシトセス之レ本局方ノ制裁ニ於テ然ル以所ナリ Hager 氏及ヒ Fyfe 氏等ノ局方注釋書ニ據レハ結麗阿曹篤中ニハ二百度ヨリ二百三度ノ温ニ於テ餾出スル部分即チ粗製倔亞蒞箇兒七十%ヲ得ヘシト云フ今回市上販賣ノ結麗阿曹篤並ニ倔亞蒞箇兒ノ成績ヲ左ニ掲ク而シテ結麗阿曹篤ノ内二種ハ當地ニ於テ購求セシ品ニシテ他一種ハ數年前ニ於テ實驗セシモノニ係ル而シテ又倔亞蒞箇兒モ當地ニ於テ購求セシ所ノ品ナリ

一甲号結麗阿曹篤ハ明治二十九年三月大坂藥品試驗會社封緘ノ品ニシテ第一九八一号ナリ而シテ

其ノ製造所ハ「ハンブルグ」ノJOH. Beidl & Co. 會社ノ商標ヲ貼附セリ本品ハ微ニ黃色ヲ帶ヒ比重ハ攝氏十六度ノ温ニ於テ一、〇五七ヲ有シ諸反應皆本局方ニ適セリ

一乙号結麗阿曹篤ハ明治二十九年六月横濱衛生試驗所ノ封緘ニ係ル品ニシテ第一三〇〇号ナリ而シテ其製造所ハ不明ニ属スルモ其商標ハ赤鳥居ニシテCarl Tohpe 横濱ト記セシ品ナリ本品ハ微ニ黃色ヲ有シ比重ハ攝氏十六度ノ温ニ於テ一、〇五七ヲ有シ諸反應又本局方ニ適セリ

一丙号結麗阿曹篤ハ(Gelbe 商會ノ商標ヲ附スル品ニシテ淡黃色ヲ呈シ比重ハ攝氏十度ノ温ニ於テ一、〇八八ヲ有シ諸反應皆本局方ニ適セリ

右三種ノ結麗阿曹篤ヲ割温蒸餾スルニ左表ノ如シ

種類	二百五度以下ノ温ニ於ケル餾出物	二百五度以上二百十度ノ温ニ於ケル餾出物	二百十度以上二百十五度ノ温ニ於ケル餾出物
甲 號	五〇、一〇%	一三、一%	一八、三〇%
乙 號	四九、〇一、	一九、三、	一二、九〇、
丙 號	一一、〇〇、	三六、六、	三二、三〇、

尙ホ參考ノ爲メ友人大阪衛生試驗所技手杉山氏カ同所ニ出願セシ結麗阿曹篤ノ割温蒸餾物表ヲ得タレハ茲ニ之レヲ併記ス

製造所	二百度乃至二百五度ノ温ニ於ケル蒸餾物	二百五度乃至二百十度ノ温ニ於ケル蒸餾物	二百十度乃至二百十五度ニ於ケル蒸餾物

ハルトマン及ヒ ハウエルス商會	三、三三%	三六、六六%	三〇、〇〇%
同	六、六六%	三五、〇〇%	三六、六六%
ケーへ商會	一〇、〇〇%	三六、六六%	三〇、〇〇%
セーリング商會	一〇、〇〇%	一〇、〇〇%	三八、三三%
同	六、六六%	三五、〇〇%	二七、〇〇%
メルク商會	三、三三%	三三、三三%	三一、六六%
ビーベル商會	八、三三%	四一、三三%	二三、三三%
リーデル商會	五、〇〇%	三三、三三%	三〇、〇〇%
チムメル商會	八、三三%	四一、六六%	六、〇〇%
テオドル、シユツ ハルト商會	三、三三%	二五、〇〇%	三〇、〇〇%
ヘンデル及ホー バイン商會	六、六六%	三八、三三%	三一、六六%
ハウエルス商會	一八、三三%	三八、三三%	二五、〇〇%
ケーへ商會	三六、六六%	二六、六六%	一六、六六%
ハルトマン及ビ ハウエルス商會	二五、〇〇%	三六、六六%	二一、六六%

同	三〇、〇〇、	四〇、〇〇、	一八、三三、
同	三三、三三、	三一、六六、	一八、三三、
メルク商會	一六、六六、	二三、三三、	三〇、〇〇、

今上表第一表ヲ見ルニ其甲乙丙三種ノ結麗阿曹篤中甲乙ノ二品ハ倔亞蒔箇兒ヲ製造ノ原資ニ供スルヲ得ヘキモ丙号ハ二百五度以下ニ於ケル蒸餾物少ナキヲ以テ倔亞蒔箇兒製造ニ適セス茲ニ於テ余ハ甲乙兩種ノ二百五度以下ノ温ニ於テ採取セシ所ノ蒸餾物ヲ以テ倔亞蒔箇兒ヲ製出セリ而テ其甲種ノ蒸餾物(二百五度以下ニ於テ得タルモノ)ハ攝氏十五度ノ温ニ於テ比重一、〇八三ヲ有シ又其ノ乙種ノ蒸餾物ハ比重一、〇八三六ヲ有セリ

甲乙兩種ヨリ得タル倔亞蒔箇兒表

種 類	比 重	二百五度以下ノ温ニ於ケル餾出物百分中ノ倔亞蒔箇兒量	現品結麗阿曹篤百分中ニ含有スル倔亞蒔箇兒量
甲 號	一、一二六	一八、五七六%	九、四八、
乙 號	—	二六、四四六、	一三、一〇、

備考 乙號ヨリ製出セシ倔亞蒔箇兒ノ比重ヲ測定セサリシハ原資五十瓦ヲ用ヒシヲ以テ其製出量一三、二二三瓦ナリキ故ニ之レヲ測定スルノ「ピクノメートル」ナキヲ以テ遺憾ナカラ其測定ヲ欠ケリ而シテ余カ製造ニ係ル倔亞蒔箇兒ハ二百十度以下ノ温ニ於テ餾出セシ部分ヲ採取セシ

モノニシテ其製品ヲ検査スルニ皆藥用ニ供スルヲ得ヘキ所ノ良品ナリ

〔販賣僱亞蒔箇兒〕

一 甲號僱亞蒔箇兒ハ明治二十九年九月大坂藥品試驗會社ノ封緘ニ係ル品ニシテ第六三五五號ナリ而シテ其製造所ハ不明ニ屬ス本品ハ微ニ褐色ヲ帶ビ其ノ味ヒ大ニ甘味ヲ有セリ之レニ濃硫酸ヲ加フルニ暗色ヲ呈ス爾他ノ反應ハ僱亞蒔箇兒ノ性狀ニ適セリ

一 乙號ハ僱亞蒔箇兒ハ明治二十九年十一月大坂藥品試驗會社ノ封緘ニ係ル品ニシテ第七六六九號ナリ而シテ之レガ製造所ハ不明ニ屬ス本品ハ微ニ褐色ヲ帶ビ諸反應其記載ニ適セリ

販賣僱亞蒔箇兒比較表

種類	比	重
甲 號	一、三〇三	六三、二七%
乙 號	一、一一七八	—

二百度以下ニ二百度以上二百五度以上三百二十度以上二百十度以上二百十度以上二百十度以上ニ於ケル縮出量ニ於ケル縮出量ニ於ケル縮出量ニ於ケル縮出量ニ於ケル縮出量

備考 甲號僱亞蒔箇兒ハ其味ヒ甘キ點ヨリ考フルルハ之レ一ノ贗造ニ係ルモノナリトス如何トナレハ本品ノ二百五度以上ノ殘留物ハ一層甚シク甘味ヲ有シ且ツ之レニ酒精並ニ依的兒ヲ加フルニ溷濁ヲ生ス故ニ余ハ該殘留物ニ稀鹽酸二滴ヲ加ヘ温ヲ與フルノ後チ之レニ「フエリンゲ」氏銅液ヲ加フルニ亞酸化銅ヲ折出セリ之レ單舍利別ヲ加ヘ其比重ヲ重クシ且ツ增量ヲ謀リタル贗造品ナラント考察セリ此ノ贗造品ハ本邦人ノ手ニ成リシモノナルヤ將タ又外國ニ於テ成リシモ

ノナルヤハ其判定ニ苦ム然レモ兎ニ角一新價造品ナルコハ敢テ疑フヘカラス

以上結麗阿曹篤ノ試驗成績ニ據リ茲ニ卑見ヲ陳述スレハ倔亞蒞箇兒ナルモノ、果シテ結核性患者ニ對シ有効ナリトセハ余ハ前述ノ如ク倔亞蒞箇兒ヲシテ益々當該患者ニ應用セラレノコトヲ企望ス如何トナレハ主成分タル倔亞蒞箇兒ノ含有乏シク且ツ比較的價高キ結麗阿曹篤ヲ用ユルハ實ニ患者ノ爲メ氣毒千万ナリト云ハサルヲ得ス試ミニ思ヘ現今倔亞蒞箇兒一匁ノ價ハ金六拾八錢ナリ而テ其一瓦ノ價ハ金二錢四厘三毛ニシテ甲結麗阿曹篤一磅ノ價金壹圓七拾錢ナリ依テ其一磅中ニ含有スル倔亞蒞箇兒ノ量ヲ算出スレハ其全量ハ四十二、四六瓦ニシテ之レカ一瓦ノ價ハ金四錢二厘三毛ニ當レリ又乙号結麗阿曹篤ノ價ハ金壹圓四拾三錢ニシテ其一磅中ニ含有スル倔亞蒞箇兒ノ量ハ五十八、九五瓦ニシテ之レカ一瓦ノ價ハ實ニ金二錢四厘一毛ニ當レリ好シヤ甲乙兩種ノ結麗阿曹篤ノ價ヲ合シ且ツ其中ニ含有スル倔亞蒞箇兒量ニ對シ一瓦ノ價ヲ求ムルキハ金三錢三厘二毛ニシテ賣品一瓦ノ價格ヨリ尙ホ高價ナルコトハ八厘九毛ニアリ斯ク論述スルキハ患者其物ハ身ニ病毒ノ慢延スルト價高クシテ効乏シキ結麗阿曹篤ヲ連用シテ遂ニハ財ヲ失セシムルノミナラス或ハ其貴重ナル生命ヲモ亦亡フルニ至ラシムルノ境界ニ陷ラシムルハ豈ニ慨歎ニ堪ユヘケンヤ乞フ諸氏回顧セヨ前段既ニ陳スルカ如ク本局方ハ結麗阿曹篤ノ沸騰點ヲ最下二百五度トナシ其制限ヲ示セリ(佛蘭西及ビ露西亞等ノ局方ニアリテハ沸騰點ヲ二百度乃至二百十度トセリ)斯ル規定ノ下ニ出ツル品ニアリテハ諸氏ガ治療上望ム所ノ倔亞蒞箇兒ヲ含有スルノ少キモノアルハ明カナリ故ニ諸氏ニシテ苟モ結麗阿曹篤ヲ應用セント欲スルモノハ宜シク本局方ノ改正ヲ催サ、レバ到底望ム所ノ

品ヲ得ルコト困難ナリ由之余ハ結麗阿曹篤ニ對シ比較的廉價ナル僂亞蒟箇兒ヲ應用セラレントヲ勸誘スルモノナリ

蓋シ輸入ノ結麗阿曹篤ハ其製造會社ニ於テ既ニ一部僂亞蒟箇兒ヲ除去セントスルモノナラント思考セリ之レ本局方ノ定度低ケレバナリ見ヨ丙號結麗阿曹篤ノ如キ實ニ其一例ナリ而シテ余ガ今回僂亞蒟箇兒製造ニ供セシ結麗阿曹篤ノ二百五度以上ノ殘留物ハ只淡黃色ヲ呈スルモ其比重ハ一、〇七八ニシテ本局方ニ適セリ且ツ爾他ノ諸反應亦局方ニ適スルヲ見レバ僂亞蒟箇兒脫結麗阿曹篤ノ輸入ナキヲ保セズ或ハ樺樹等ヨリ製造セシ結麗阿曹篤ナルヤ聊カ記シテ諸家ノ參考ニ供ス

◎上膊骨上髌突起ノデモンストラチオン 會員 金子 治郎

上^〇髌^〇突^〇起^〇トハ上膊骨内上髌ノ上方ニ存スル一異常突起ニシテ由來久シク人ノ知ル所、然レモ本邦人ニ於テハ泰西諸家ノ記スルカ如ク屢々見ルモノニアラス、故ニ吾醫學部解剖室ノ貯藏ニ係ル此標本ノ如キハ蓋シ稀有ニ屬スルモノナラン、此標本ハ予カ本部ニ就任ノ當時在來ノ標本調査ニ際シテ目撃セシモノナリ、而シテ既ニ斯ノ如ク番號ヲ附シテ貯藏セルヲ以テ觀レハ素ヨリ諸君ニ於テモ既ニ一見セラレタルモノト信シタリキ、然ルニ東京醫學會雜誌第十卷第二十四冊ニ於テ足立氏ノ報告ニ係ル本邦人脈管調査ト題セル一篇中左ノ記事アルヲ認メタリ千二百四十五頁ノ下段

〔前畧〕然ルニ今回ノ解剖學會ニ於テ田口博士小金井博士鈴木學士等ノ口話ヲ聞クニ從來諸氏ノ之ニ注意シタルニモ拘ラス一回モ之ニ遭遇セスト云フ(以下畧ス)